

## 〈国際金融パネル〉

### テーマ：国際金融理論の新潮流

#### —開放型ニューケインジアンモデルの可能性—

座長 関西大学 高屋定美

#### 〈パネルの趣旨〉

従来の開放マクロ経済モデルでは、為替レートの決定理論、金融政策の国際協調の効果、海外からの外生ショックの影響など、様々な国際的問題に対して理論モデルが構築され、一定の成果が得られてきた。近年の国際マクロ経済モデルの展開では、ニューケインジアンモデルを応用したモデルが学会で盛んに行われるようになってきた。この傾向は、ルーカス批判を受けマネタリーマクロモデルにおいては、主体行動のミクロ的基礎を組み込んだモデルの展開が一般的になりつつあることを受け、Obstfeld=Rogoff(1995)の発表以来、開放経済モデルにおいてもミクロ的基礎のあるモデルが追求され、ニューケインジアンモデルでの開放モデルの理論および実証研究が多く登場することとなった。

ニューケインジアンモデルには、経済主体のミクロ的基礎を持つこと、独占的競争が仮定され、名目価格の粘着性があること、厚生分析を行うことができること等が共通した特徴である。それを開放モデルに拡張したモデルが、開放型ニューケインジアンモデルと呼ぶことができる。ただし、その拡張方法には論者によって様々な方法があり、議論を呼ぶ点でもある。

今回の国際金融パネルでは、開放型ニューケインジアンモデルの理論的な基礎を明らかにしつつ、そのモデルの現実への応用可能性について、論じていただくことを目的とする。現在でも、国際金融政策協調、金融政策の波及効果などでの厚生分析にも応用がなされているが、今後、理論的にどのような展開がありうるのか、また実証的に頑健なモデルとしては、どのようなモデルが適用可能なのかなど、開放型ニューケインジアンモデルの可能性をアカデミックに考察したいと考えている。